

第32回

# 全国きき酒選手権大会 ★ レポート

個人の部は秋田県・谷口さん。団体は群馬県（依田・那須ペア）が2連覇

34都道府県の代表68人が、鍛錬のワザを競い合った一日



中央会の篠原会長と日本酒マスコット・おちょこんから祝福を受ける優勝者の皆さん。  
右から、団体優勝の那須さんと依田さん、篠原会長、個人優勝の谷口さん、おちょこん

第32回「全国きき酒選手権大会」(主催 日本酒造組合中央会)が10月19日の午後、東京港区のインターコンチネンタル東京ベイで開催され、＜個人の部＞では秋田県代表の谷口秀明さんが初優勝。また、＜団体の部＞では依田悟史さんと那須晶さんの群馬県チームが、みごと2連覇の偉業を達成しました。激戦2時間、その一部始終をレポート。



## 2012年の統一王座を賭けて。新人、ベテラン、入り乱れての争奪戦

### ● 各県のきき酒名人が一堂に

1981年のスタート以来、32回目を迎えた「全国きき酒選手権大会」。各県の予選を勝ち上がってきたきき酒名人が、一堂に会してその年の統一王座を競う、文字どおり全日本酒ファン注目の真剣勝負です。2012年のチャンピオンを決定する今大会には、新人、ベテランを含め34都道府県の代表68人が参戦し、例年通りの熾烈な争奪戦を繰り広げました。



激戦の舞台となったインターコンチネンタル東京ベイ



佐浦需要開発委員長

◀ 開会式は正午から。冒頭、中央会の佐浦需要開発委員長が挨拶し、「今年は21歳から72歳まで、幅広い年齢の方々にご参加いただきました。今回もハイレベルの競技が期待されますが、この大会の狙いはあくまでも競技を楽しんでもらうこと。緊張を解き、リラックスして、一日を楽しんでください」と、参加者を激励しました。



▶ 昨年団体の部を制した群馬県チーム(依田悟史さん・那須晶さん)が、佐浦委員長に優勝杯(角樽)を返還。

▶ 選手宣誓は徳島県チーム(出葉茂・久美子さん)。「妻のカエレコールにもめげず、いろいろな銘柄を試してきた日ごろの成果を発揮し」「精一杯きき酒することを誓います」と、元気いっぱいに宣誓。



▼ 中央会の濱田理事から競技方法の説明を受けた後—



▶ いざ、競技開始！  
まずは、酒造の知識を問う筆記試験(20問、20分)に挑戦。これがまた、難問ぞろい。



## 静かな火花が散る 15 分の真剣勝負。外国人チームなど特別枠も

### ● タレントのぜんじろうさんも 2 年連続で参戦

きき酒競技の方法は、7 種類の日本酒（純米吟醸、大吟醸、純米、本醸造、生酒、低アル酒、普通酒）を 2 度きき酒して同じものを合わせるマッチング法で、4 組に分かれた参加者は、各組約 15 分の制限時間の中、緊迫感みなぎる真剣勝負を展開。

また、特別枠として、日本の伝統文化発信に取り組む女子大生グループ「やまとなでしこプロジェクト」のメンバーや外国人チーム、マスコミチームが競技に加わったほか、お笑いタレントのぜんじろうさんも 2 年連続で特別参加して大会を盛り上げました。



▲ いよいよ本番。会場に響くのは幽かなグラスの音だけという研ぎ澄まされた空気の中で、真剣勝負の火花が散る。

▼ 外国人チームの皆さん。「難しかったけどオモシロかった。日本酒は吟醸酒とか濁り酒とか、種類がいっぱいあって素晴らしいですね」(アメリカ人の参加者)



▲ 「やまとなでしこプロジェクト」の 2 人も善戦

▼ ぜんじろうさん「本気で優勝めざします」



▲ 決着は、女性 1 人を含む 13 人によるプレーオフに。今年も激戦でした。



▲ 採点の待時間を利用して、秋田大学の滝澤行雄名誉教授が「日本酒と健康」と題して講演(14:50~15:20)。今回初の試み。

▶ 競技が済んで反省会。「時間配分が難しかったね」「部屋に籠ったお酒の匂いに感わされちゃった」



◀ 参加者 1 人ずつ記念撮影

## 懇親パーティで表彰式。優勝者が喜びのコメント

### ● 健闘を称え「日本酒で乾杯！」

競技の後の懇親パーティでは、中央会の篠原会長の発声で「日本酒で乾杯！」した後、お互いの健闘を称えて歓談のひと時。お待ち兼ねの表彰式では、各部門の入賞者に篠原会長から賞状や記念品（日本酒と全農提供のお米券など）が手渡され、鍛錬の成果をいかに発揮した入賞者各氏の活躍に会場から盛んな拍手が贈られました。



「皆さんの勉強の成果に敬意を表します」と篠原会長



◀ 初出場で見事個人の部を制した谷口秀明さんは、「30歳のとき、職場の先輩に教えられて日本酒を飲むようになった」という日本酒歴6年の団体職員。「毎日良いお酒をおいしく飲んできただけで、特にきき酒の練習をしているわけではありません。なんだか偶然が重なって優勝したみたいで、自分でいいのかという気がしています」と、謙虚な口調で喜びを語っていました。



◀ 群馬県の団体の部2連覇は2004年の鳥取県、2007年の島根県に続く偉業。昨年も出場した依田悟史（写真左）さんは「練習というんじゃありませんが、この1年、毎日飲んだことのないお酒を飲むようにしてきました。いい酒を飲みたいという思いが上達のコツかもしれませんね」と余裕の弁。

一方、初出場的那須晶さんは「昨年の優勝者とペアを組んだので緊張しました。責任を果たせてホッとしています。日本酒は20歳のときからずっと飲んできました。やっぱり一番好きな酒です」と、興奮ぎみのコメントでした。



## 上位入賞の方々（敬称略）

### ● 個人の部

優勝 谷口 秀明(秋田県)  
準優勝 渡辺 英雄(新潟県)  
第三位 加藤 哲也(鳥取県)

### ● 団体の部

優勝 群馬県(依田 悟史/那須 晶)  
準優勝 福島県(安田 道隆/吉田 加奈)  
第三位 新潟県(渡辺 英雄/伊藤 善行)



団体の部準優勝の福島県チーム(左 吉田さん、右 安田さん)



団体の部3位の新潟県チーム(左 伊藤さん、右 個人の部準優勝の渡辺さん)



個人の部3位の加藤さん

## 闘い済んで ● 懇親の宴



◀ ぜんじろうさんも  
司会で参加

▶ 審査総評は(独)酒類総合  
研究所の中井進理事。「熱気  
あふれる競技は皆さんの意識  
の高さの現れです」



料理もおいしい



和やかな語り



外国人チームも頑張りました



個人の部 10位～4位入賞のみなさん



こちらは特別枠で上位入賞した皆さん



▶ 澤田需要開発副委員長の中締  
め挨拶で、再び「日本酒で乾杯！」

